

会議結果報告書

会議の名称	令和元年度第2回札幌市子ども・子育て会議
日時・場所	令和元年9月18日(水) 10:00~12:00 札幌すみれホテル 3階 ヴィオレ
出席委員 23名/29名中	安藤慎也、岩松弘毅、大場信一、梶井祥子、金子勇、川俣智路、北川聡子、齋藤優希、品川ひろみ、白取信子、高橋司、遠山博雅、中村みどり、林亜紀子、前田元照、正岡経子、松田秀夫、松本伊智朗、箭原恭子、山下貴司、山中里美、横山尚幸、吉田賢一 (敬称略)
傍聴者数	1名

議事	概要
1. 会長、副会長の選任について	○「札幌市子ども・子育て会議条例」をもとに、会長に金子勇委員、副会長に梶井祥子委員、松本伊智朗委員が選任される。
2. 札幌市子ども・子育て会議の概要について	<事務局説明> ・当会議設置経緯や、審議・決議事項、各部会の概要について、資料2に基づき説明。 <主な委員質問・意見> 特になし。
3. 部会の委員及び部会長の指名について	○「札幌市子ども・子育て会議条例」をもとに会長から以下の通り指名。 《認可・確認部会》 部会長：品川委員、委員：菊地委員、齋藤委員、白取委員、豊田委員、前田委員、横山委員 《放課後児童健全育成事業部会》 部会長：正岡委員、委員：安藤委員、佐藤委員、林委員、松田委員、山中委員 《児童福祉部会》 部会長：松本委員、委員：岩松委員、大場委員、北川委員、高橋委員、遠山委員、箭原委員、山下委員 《処遇部会》 部会長：高橋委員、委員：岩松委員、大場委員、北川委員、松本委員 《いじめ問題再調査部会》 部会長：川俣委員、委員：梶井委員、高橋委員 <主な委員質問・意見> 特になし。
4. 新・さっぽろ子ども未来プランの改定について	<事務局説明> ・(仮称)第4次さっぽろ子ども未来プラン素案について、計画の位置付け、札幌市の子ども・子育ての現状、計画の推進体系、基本目標ごとの成果指標、具体的な施策の展開等を資料4、資料5に基づき説明。 <主な委員質問・意見>

●地域資源の記載等について

- ・(委員) 地域資源の活用による社会全体で連携して支える視点が加わったことは大事な点である。学校教育での連携を検討すべき地域資源の例に放課後デイサービスを加えるべき。
- ・(委員) 地域連携の視点だけではなく、市役所の中での連携が見えにくいので、庁内の連携を具体的にどう進めるのかをプランの前段の部分に、具体的に記載してほしい。
- ・(委員) 子育て世代包括支援センターと利用者支援事業との関係が見えにくい。旗振り役を含め、どのセクションが担っていくのか。現状では、保育と保健センターはどのように連携しているのか。
- ・(委員) 地域連携について、各区、中学校区などの、どの程度の地域の範囲を想定するか、施策のところに書きこみがあると議論が進む。
- ・(委員) 町内の繋がりが薄くなってきているので、人と人との繋がりをつくる引き金となる施策があると良い。

⇒(子ども企画課長) 地域資源の記載の範囲や、庁内連携の視点は、表現の修正をさせていただきたい。子育て世代包括支援センターについてであるが、各区保健センターが中心となって、母子保健から保育の支援も含めて一括的に行っていくことを考えている。なお、現状は、各区保健センターに「こそだてインフォメーション」という窓口が設置されており、母子保健との連携しながら、包括的な情報発信を行っている。

●虐待、DV、特定妊婦等の記載について

- ・(委員) 妊娠期からの切れ目のない支援の充実について、正常に経過したお母さんだけではなくて、お腹の中にいるときから障がいがあり、産まれたら医療的ケアが必要となる子どもやシングルマザーで双子を産む方なども含めて支援を検討しているのか。
- ・(委員) 特定妊婦は児童虐待と関係が深いというデータがあるが、配慮は考えているのか。
- ・(委員) 児童虐待とDVの問題が絡むと深刻な事案につながるリスクが高い。虐待とDVの関係について、どのように考えるかを計画に具体的に入れてほしい。更に、啓発について女性だけではなくて、男性に対する教育も含めて事業に入れておくことが必要ではないか。

⇒(地域保健・母子保健担当課長) 胎内異常、出産後に先天性の異常疾患が見つかったときは、医療機関と連携して早期に情報をもらい支援している。全ての子どもたちを妊娠期から健やかな成長に導く施策を充実していくことを考えている。特定妊婦は、本文中の「望まない妊娠や若年妊婦など」が特定妊婦を意識している表現であるが、記載内容は修正を検討したい。

⇒(子ども企画課長) DVについては、権利侵害の箇所に「デートDVの防止」の記載があるが、昨今の虐待とDVの関係性を考慮の上、書きぶ

	<p>りを強化したい。</p> <p>●数値目標の分析について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) 子どもを生み育てやすいと思う人の割合が下がっているが、属性ごとの詳細な分析を次の会議までに示していただきたい。 ・(委員) 成果指標の目標値について、現状維持で設定しているもの、高く設定しているものがあり、どのような基準や根拠で設定しているか、次の会議までに示してほしい。 <p>⇒(子ども企画課長) 次回会議にて資料を用意したい。</p> <p>●その他意見について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) 児童相談について、北海道は児童相談所内での転勤があり児童福祉司としての経験を積みやすいが、市は児童相談所を離れて他部署に異動するケースが多い。幅広い見地を持ちケースにかかわるという面もある。専門職と総合職のバランスの取り方はどうあるべきか、人事政策として必要ではないか。 ・(委員) 保育施設が増大しており、経験が少ない方が多く保育の現場に出ている。以前はなかった小規模保育施設や企業主導型もでてきている。ただ単に研修を増やす、通常の質の保育策だけでは不十分であり、どのように保育の質の確保を考えるのか具体的に検討してほしい。
<p>5. 需給計画のうち「供給」の考え方について</p>	<p><事務局説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・(仮称) 第4次さっぽろ子ども未来プランにおける教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業に関する「供給」の考え方について資料6-1に基づき説明。 <p><主な委員質問・意見></p> <p>●放課後児童健全育成事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) 放課後児童健全育成事業の確保方策について、放課後等専用区画を活用して過密化を解消していくということだが、具体的にどのようなものなのか。 ・(委員) 放課後等専用区画として児童会館の体育室への特別な措置は、体育室は普通の子も体育をしており、そこを生活の場にするという考え方は相入れないものではないか。 <p>⇒(放課後児童担当課長) 児童会館の体育室への特別な措置は、体育室自体にマット等を敷設し、机や椅子を設置して、遊び、生活の場としている。実際に体育を行っているところで同じように活動はしていない。また、ミニ児童会館は、毎年、登録児童数が変わるので、その段階で過密化しているかどうかを判定し、各小学校に協力を依頼して放課後に活動できるスペースを借用している。</p>

	<p>●教育・保育施設の量の確保方策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(委員) 4月時点で1号と0歳は不足がないとなっているが、年度の途中からの入所は難しいのが現状である。また、行政区ごとに説明をされているが、区の中でも地域が広く遠い保育所には通えない状況である。 ・(委員) 実体験から、年度途中で保育所を利用したくても、ほとんど利用できない現状である。国定義ではなく、市・区でどのくらい人数が足りないかを出すべきではないか。また、保育所を探す際に、区役所では近くの保育所の一覧表をもらっただけで、個別に電話をしなければならない状況であった。定員の空き状況等を区役所で丁寧に教えてほしい。 ・(委員) 幼児教育・保育無償化が始まると、新たに2号が増えると想定される。10月以降、その影響がどうなるかを調べてほしい。また、認定こども園は、幼稚園教諭と保育士の両方が必要であり、幼稚園教諭は10年ごとの免許更新が必要で、復帰の足かせになっている人もいる。認定こども園、保育園にはあって、幼稚園には生かされていない制度や支援が多い。人材確保がままならない中で供給ばかりで進めると、保育の質が落ちてくると思う。 <p>→(保育推進担当課長) 定員不足の算出は、昨年12月から今年1月にかけて、ニーズ調査を行って算出したもの。ニーズ量自体は、国定義の待機児童かどうかではなく、ニーズ調査を踏まえ、保育の利用希望や就労状況を踏まえた保育の必要性によって、区ごとに、5年間分を推計したもの。今回、3歳から5歳のニーズ量が不足になっているが、保育園をつくる場合には、0歳から5歳児までの保育園を建てることになるので、現状では入りにくいと言われている1・2歳についても、3歳から5歳の供給の確保にあわせて整備をしていくことになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所での情報提供のあり方について、現在、各区で週1回各園からの受入れ可能数の情報をもらっている。しかし、日々の情報が入らない場合があり、実際に園を見ていただくなどやりとりしていただくことが必要な場合もある。ご意見は区役所にも伝え、よりよい情報提供ができるように努めたい。
<p>6. 各部会の決議状況について</p>	<p><事務局説明> (保育推進担当課長、企画担当課長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所、地域型保育事業等の認可・確認等の決議状況について、資料7に基づき報告。 ・被措置児童等虐待に関する報告について、資料8に基づき報告。 <p><主な委員質問・意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし

(議事概要について発言者内容確認済み)